

都市構造上の課題とまちづくりの方向性(案)

平成27年7月31日

北九州市 建築都市局

資料4

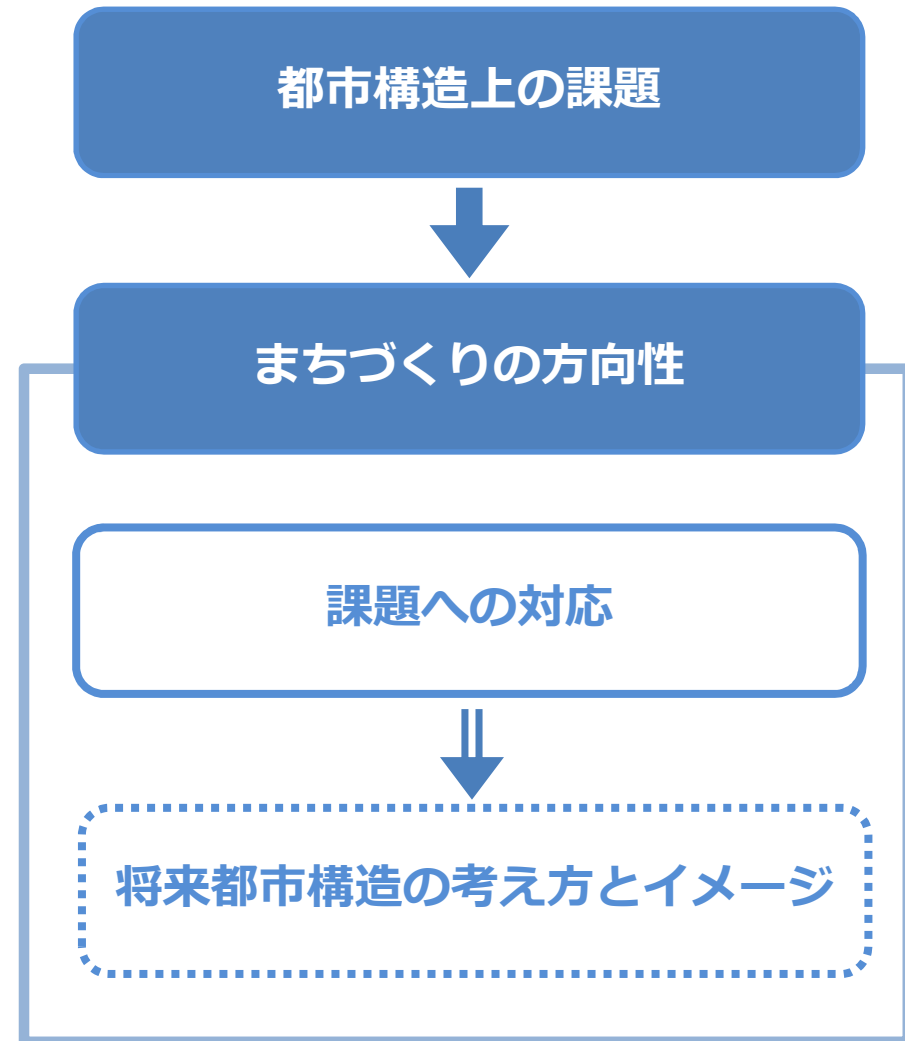
Ⅲ 都市構造上の課題とまちづくりの方向性

(1) 都市構造上の課題

(2) まちづくりの方向性

① 課題への対応

② 将来都市構造の考え方とイメージ



Ⅲ-(1) 都市構造上の課題①

○ 都市の現状等を踏まえると、本市の都市構造上の課題は次のとおり整理される

【都市の現状等と懸念事項】

〈人口〉

○ 人口の減少、高齢化率の増加、生産年齢人口比率の低下が予測
→ ・働き手の減少による税収の減少
・通学・通勤人口の減少による公共交通利用者の減少

○ DID人口密度のさらなる低下が予測
→ ・地域活力の低下
・一人当たりの行政コストの増大

○ 拠点である市街地中心部ほど、人口密度の低下が大きいことが予測
→ ・拠点の活力低下

○ 市街化区域の周縁部の斜面地における、人口・人口密度の低下、高齢化率の増加が予測
→ ・地域活力の低下

〈土地利用〉

○ 世帯数の減少に伴う空き家の増加が予測
→ ・周辺居住環境の悪化、地域活力の低下

○ 小倉都心地区において、未利用地が点在
→ ・未利用地が増加した場合の都心の賑わいや拠点機能の低下

【都市構造上の課題】

① 地域活力の低下

② 拠点機能の低下

③ 公共交通の衰退

④ 財政悪化

⑤ 防災面での安全性の低下

(次ページへ続く)

Ⅲ-(1) 都市構造上の課題②

○ 都市の現状等を踏まえると、本市の都市構造上の課題は次のとおり整理される

【都市の現状等と懸念事項】

(前ページからの続き)

〈都市交通〉

- 公共交通のネットワークは充実しているものの、利用者数は減少傾向
今後、人口密度が低くなる地域も発生
→ ・公共交通利用者数が減少した場合の事業者の採算性確保に伴う、公共交通のサービス水準の低下

〈財 政〉

- 地価は、市街化区域、特に中心市街地において、大きく下落
→ ・人口減少や都市機能の撤退による地価の下落と、これに伴う税収の減少
- 公共施設の大規模改修等の財源は、近年の財政水準では大幅に不足
→ ・財政悪化
・耐震性が不足した公共施設の使用、老朽化により立ち入りや使用を禁止せざるを得ない公共施設の発生

〈将来人口からみた都市構造〉

- 小売販売の床効率が低下等するなか、今後、身近な商業施設(コンビニ・スーパー)の利用圏人口が減少
→ ・施設の存続が困難となることによる“買い物弱者”の増加
- 斜面地には、土砂災害警戒区域も多く、高齢化率も高い
→ ・災害発生時の避難対応における、地域の自助・共助力の低下

【都市構造上の課題】

- ① 地域活力の低下
- ② 拠点機能の低下
- ③ 公共交通の衰退
- ④ 財政悪化
- ⑤ 防災面での安全性の低下

Ⅲ-(2)-① 課題への対応

○ 都市構造上の課題に対し、以下の対応が考えられる

○ 地域活力の低下への対応

- ・生活利便性の高い区域への居住誘導による人口密度の維持
- ・人口減少に対応した生活サービス施設の適切な再配置

○ 拠点機能の低下への対応

- ・拠点への都市機能の誘導

○ 公共交通の衰退への対応

- ・公共交通による移動の促進、利便性の向上、ネットワークの維持・存続
- ・公共交通軸周辺への居住の誘導

○ 財政悪化への対応

- ・持続可能な都市経営のための行政コストのマネジメント

○ 防災面での安全性の低下への対応

- ・斜面地から生活利便性の高い平地へ居住を誘導

Ⅲ-(2)-② 将来都市構造の考え方とイメージ①



○ まちづくりの方向性としての将来都市構造の考え方は次のとおり

【北九州市型コンパクト＋ネットワーク】

(1) 都心小倉、副都心黒崎をはじめとする複数の既存拠点のポテンシャルを活かし、

「 拠点に都市機能を集約 」

(2) 充実した公共交通ネットワーク等の既存の都市基盤ストックを活かし、

「 生活利便性の高い拠点等、公共交通軸周辺へ居住を誘導 」

(3) 将来の都市機能や人口集積を見据えた

「 地域公共交通ネットワークの再編 」

Ⅲ-(2)-② 将来都市構造の考え方とイメージ②

○ まちづくりの方向性としての将来都市構造のイメージは次のとおり

■本市における将来都市構造(北九州市型コンパクト+ネットワーク)のイメージ図

